

ビット操作でメモリー配列に描画した原型パターンのプリンタと
VRAMへの転送

和洋女大文家政 ○高橋和雄、県立松戸矢切高 福田恵子、和洋女短
大家政 加治工陽子

目的 前回、学校教育における被服製作の指導方法について検討してきた¹⁾²⁾。すなわち、体格だけでなく体型にも適合した原型製図をするために、補正量を前もって指示することで仮縫い時の補正を不要にしようとする試みである。ここでは、これらの一環として、常備されているシリアルプリンタに原型パターンを出力する方法について報告する。**方法** ①ウエストとヒップのサイズが同じでも、断面形が真円に近いかわるかによってダーツ位置などが異なってくる。そこで、体型とサイズをメニュー画面で選択し、補正を自動的に取り込み、VRAMとは別の大きな2次元メモリー配列にビット操作で描画する。1バイトで8個の1次元座標点と対応させる。②メモリー配列を任意に切り取り、プリンタあるいはVRAMへバイト単位で逐次転送する。プリンタの場合では、パーツごとに実寸で全体を描くことができる。③2次元メモリー配列は生地に対応させることができるため、型紙の配置方法についても学ぶことができる。このために、全体のパーツ配置を縮小してVRAMに転送する。**結果** CRT画面のハードコピーの場合には不可能であったパーツのまるごと描画が、プリンタにビットイメージを転送することで可能となった。また、高価でかさばり、使用法の指導が難点であるXYプロッタの代わりにプリンタを使用することで簡便化を実現した。今後の展望としてプログラムにショートパンツなどの選択メニューを加えれば男女共修の時代に対応できるものと考えられる。

文献 1) 福田、高橋;家政学会 第44回大会要旨集, p.180. 2) 高橋;同要旨集, p.191.